

ツキヌキゴケ科

タカネツキヌキゴケ (ミヤマホラゴケモドキ)

Calypogeia neesiana (C.Massal. & Carestia) Müll.Frib. subsp.
subalpina (Inoue) Inoue

兵庫県ランク… C

環境省ランク… —

■ 県内分布

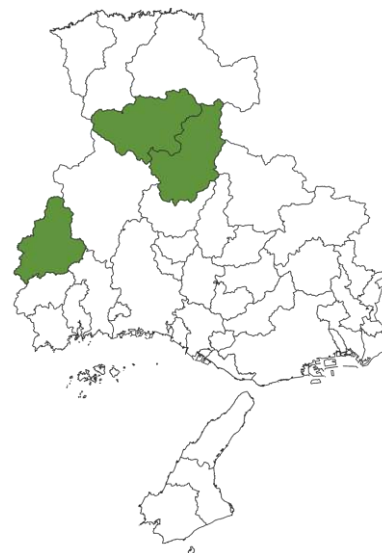
佐用町、養父市、朝来市

■ 国内分布

北海道、本州、四国、九州

■ 選定理由

人為性		特殊性		学術性	
生育環境破壊		特殊生育環境		特殊な分布	○
観賞用等採取		特異な生態		分布の限界	
				希少	



■ 特記事項

2008年調査では佐用町での生育を確認したが、2018年の調査では見出すことができなかった。

■ 保護上の留意点

—

■ 種の概要

白緑色から黄緑色、長さ約2cm。葉は重なり、舌形、長さ約1mm、円頭。腹葉は茎径の2-3倍幅、腎臓形、全縁、円頭からやや凹頭ないし1/3まで浅く2裂する。葉身細胞は背縁で細長くなり、薄壁からやや厚壁、トリゴンがなく、表面に点状ベルカがある。油体は各細胞に3-10個、楕円体、ブドウ房状。亜高山帯の林床や倒木上にふつうにみられるが、風穴周辺にも生育する。